

駒草

東北文教大学山形城北高等学校

駒草同窓会会報

輪をつなぎ 和を広げる同窓会だより

歩みをとめずに

同窓会会長
片桐 道子

会員の皆様におかれましてはご健勝でお過ごしのことと存じます。駒草同窓会総会開催の年にあたりご挨拶申し上げます。

前回の三年前は山形市内のホテルを会場に賑やかに総会と懇親会を執り行いました。しかしその数ヶ月後に、世界はコロナ禍の不穏な状況に陥ってしまい、役員会の開催も自粛モードでした。それでも今年の秋ごろには世の中の情勢に注視しながら広報や会場の規模をごくごく縮小し、総会の実施を判断しました。歩みをとめずにの苦渋の判断をどうぞご理解賜りたくお願い申し上げます。そして、本年の同窓会運営から三点ほど、この会報を介して周知を図らせていただく次第です。

一点目は、駒草同窓会のモットーができました。輪をつなぎ 和を広げる同窓会です。これは、会員の方とこれか

不易流行の真の意味

校長（同窓会副会長）
大沼 敏美

令和2年4月より校長を拝命しております。同窓会の皆様には様々な形でご支援をいただき、心より感謝申し上げます。着任してからの日々は、まさにコロナとの戦いでしたが、今年度になってからは、「マスク」を除けば、ほぼ通常の形で教育活動を行っております。自転車やバイクの走り出しはより大きな力が必要で、しかもよるめいたりしがちです。最初のひと漕ぎは「より強く」をイメージしながら、むしろコロナ前より上を目指す勢いで何事にも臨むようにしています。様々な活動の様子については、ぜひ本校のホームページでご覧いただければと思います。

さて、本校は今年で創立96周年を迎え、男女共学になり丁度20年、男子の割合は42%まで増えました。最近のトピックといえば、何といっても卒業生である高梨

らの同窓会について話し合いました折、その意見交換の中から生まれたフレーズです。この精神を共有し運営にあたります。

二点目は、高等学校内に同窓会室ができました。大沼校長先生のご尽力のもと実現しました。今後、同窓会の情報や近況等を発信できるよう、環境を整えてまいります。

三点目は、駒草同窓会が在校生に与える奨学金制度についてです。これは在校生の将来を後押しするものであり、できる限り早期実現を目指し鋭意検討中です。会員の方々のご理解を望むものであります。

さて現在、山形城北高等学校は県内で最大の生徒数を誇る母校です。私たち同窓会は諸先輩のご尽力を引き継ぎながら不易流行を大切に母校の縁になるべく歩み続けて参ります。

健太選手が、昨年開催された東京五輪のバレーボール競技で活躍したことででしょうか。また、少子化が続く中ではありますが、近年は生徒数が増加し、県内では生徒数の最も多い学校となっております。これもひとえに、生徒は勿論のこと、卒業生の皆さんのご活躍があつてのことと御礼申し上げます。

また、本校は今年度から校名の前に「東北文教大学」を冠することとし、県内唯一の総合学園である富澤学園の一体感をより一層強めることになりました。「不易流行」とは、本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものを取り入れていくこと、すなわち新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが、不易の本質であるという意味です。「敬愛信」という人格陶冶の精神を引き継ぎながら、新しいことにも果敢に挑戦してまいりますので、今後ともどうぞよろしく願ひ申し上げます。

お町の同窓生

片山 陸さん
平成21年度卒業

祝 優秀和菓子職認定

山形市長町にある和菓子店「菓久礼庵」かたかご。店主の片山陸さんは、今年8月、「優秀和菓子職」に認定されました。この「優秀和菓子職」は、全国和菓子協会が認定する和菓子界最高の栄誉です。厳しい審査を通過し、高い技術が認められた片山さん。お店を訪ねると、きびきびと仕込みをしながらとても穏やかに応対してくださいました。

片山さんは、「祖父も父親もお菓子を携わっていたためお菓子屋になつてみよう」とこの道に進んだそうです。高校卒業後、同市の老舗和菓子店で11年間修業を積み、家業を継ぐ形で独立。自分の店を営む傍ら、さらに腕を磨き、二度目の挑戦で栄えある認定となりました。「優秀和菓子職」は、県内では片山さんの師匠に続き二人目とのこと。師弟そろっての栄誉です。1回目、2回目と挑戦する中で確実に技術が上がつていることを実感していた片山さんは、今回こそは1つという思いで認定課題に臨みました。そして修行から得た確信と強い気持ちで美しく美味しい和菓子に結晶したのです。

和菓子職人として最も大切にしていることを尋ねると、「美味しいお菓子を作ることだけを目標としています」と片山さん。「今の店は自分の代で終わりにしようと思つていますので、75才までの45年間でどれだけ有名店にできるかの挑戦が続いています。挑戦し続けることに意味があると思うので、これからも頑張っていきたいです」。静かな住宅街の一角。その名もゆかしいお店で、片山さんは今日も和菓子の道に励んでいます。



かたかご製 四季の上生菓子

言葉の贈りもの



平成20年度卒業
横沢 優美さん

「人間は考える華である」。これは、卒業式の日に恩師である山村美和先生から頂いた言葉です。先生はさらに、「人間は頭を使って考えることができる。考えることは時間も労力もかかるが、自ら一生懸命考えたその過程こそが、大きな財産である」と励ましてくださっていました。

私にとって高校生活は、まさに青春！毎日が新鮮で楽しく、連絡を取り合う大切な友人や進路を決める後押しをしてくださった先生方に出会えた貴重な三年間でした。夢だった幼稚園教諭になり、今年10月目を迎えました。先生に頂いた言葉は、今でも心の中に深く残っており、保育をする上でも常に心掛けながら、日々子ども達と関わっています。未来を担う子ども達に、どんな時でも「自分で考える」ことの大切さを伝えていきたいです。

喜びも、悔しさも



平成26年度卒業
高梨 健太さん

ウルフドッグス名古屋所属
日本代表バレーボール選手

全国大会出場を目指し、部活動のバレーボールに熱中した高校時代。私にとって城北の3年間は、今でもよく「城北を選んで良かった」と思うところがあるほど、人生を大きく変えた他の何ものにも代えがたい大切な時間です。

(2023年学校案内より)

同窓会誌に寄せて



昭和55年度卒業
本間 尚子さん
(旧姓 新聞)

昭和56年卒業の新間尚子です。私は結婚を機に酒田市に住んでおります。山に囲まれた山形から、一番近い山が鳥海山という見渡す限り平野。雪は下から降る地吹雪の街ですが、いつの間にもやがて生れ育った山形と同じほどの年月をこの地で過ごし、今では地吹雪の中の運転もお手の物、すっかり馴染んでしまいました。

私達の学年は今年、還暦を迎えますね。皆様、お元気で過ごして下さいます。何年か前に同窓会の幹事学年で、学校を初めて訪ねました。男子高校生がいることに新鮮な衝撃を受けると同時に、校舎の所々に私たちが通った面影を感じ、私にもあんなにキラキラした高校時代が確かにあったのだと懐かしく思ったものでした。

今は二人の娘も社会人となり、子育ても一段落し、地域のおばちゃんとして小学校の読み聞かせに通う日々です。このおばちゃん、大好きな朗読の勉強と、今流行りの推し活よろしく宝塚にはまり、第二の青春を楽しんでおります。コロナにも負けず、元気で朗らかにいたいと思います。56年卒の皆様、いつかお会いできることを楽しみにしております。最後になりましたが、同窓会の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

今の私



平成30年度卒業
原田 光翼さん

高校時代も、バレー部に所属し、三年間バレー漬けの毎日です。辛い事もたくさんありましたが、今思うと大好きな毎日です。バレーが出来たことは、とてもいい思い出です。色々な年齢層の方々と一緒にバレーができて、人との関わりも増えバレーを続けていく楽しさを感じました。

社会人でも趣味を持つと気分のリフレッシュにもなりおすすめです！

城北高校での素敵な出逢いに感謝



昭和61年度卒業
渋谷美栄子さん
(旧姓 坂本)

山形城北高等学校を卒業して長い月日が経ちましたが、今でも高校生活で楽しかったことは鮮明に覚えております。息子も卒業生です。親子でお世話になりました。2年前に長く勤務していた会社を退社して「肌と心のサロントハタス」をオープンさせました。心はともて細く、ほんの少しのことにも影響を受けやすく、ケアをしないと壊れてしまいます。肌と心は繋がっているのだから、肌と心を同時にケアできる場所があれば、多くの方が笑顔になり幸せになれるのではないかと確信して起業しました。

自分と出逢った方々に感謝して起業しました。フを行ってあります。

城北高校で学んだ「敬・愛・信」の教えが今の自分を支えていると感じております。卒業アルバムをめくってみると、懐かしい友や先生方の笑顔があります。たくさんの方々の愛を感じて幸せになります。出逢ってよかったと思います。

今の私



平成18年度卒業
松村 崇徳さん

私は理学療法士として働いています。ケガや病後、加齢などで体を動かすのが困難な方の機能回復を、様々な方法で支援します。たとえ病気の名前が同じでも患者さんの数だけ症状は異なるので、患者さんに合わせてケアしていきます。患者さんが大事になるので、その責任は大きいですが、リハビリが上手になると、その達成感も大きく患者さんと一緒に喜びます。

高校時代、先生方には勉強や進路のことなど親身に指導していただき、しっかりと寄り添ってくださったことに感謝しています。私生活では趣味として、美味しくコーヒィやお酒を飲むことを楽しんでいて、美味しくて、合点の食料や状況を考へて準備します。計画通りにいかないこともありますが、それもまた人生、酸いも甘いもありですが、何事も経験と捉えて頑張っていきたいと思っております。

男女共学 20年によせて



新入生 誓いの言葉



平成14年度 入学式



平成16年 体育祭

2022年(令和4年)
母校は男女共学20年の節目を迎えました。
生徒の皆さんのさらなる飛躍をお祈りいたします。

城北生 エール！

在校生の活躍の場は、校内外を問わずとても多様になりました。
一人一人に私たちのエールが届きますように。



陸上部
時間14分8秒
0度目の栄冠！



荳原恵衣オフィシャルHP <http://www.kei-kayahara-jazzvocalist.com>

Interview

Jazz Singer

ジャズシンガー

荳原 恵衣さん

平成8年度卒業

——国際コース出身ですね。どんな思い出がありますか。

個性豊かな方が多いなあという第一印象でした。他のコースとは全く違う雰囲気があったのを覚えています。ネイティヴの先生が活きた英語を教えてくださいました。海外に繋がった。当時の私はヘアメイクアーティストになってフランスに行きたいと国際コースに入学したので、第二外国語はフランス語を選択しました。夢に近づけると期待が膨らみました！特に印象に残るのは2年生の時に参加したカリフォルニア州サンディエゴでの語学研修です。ホストファミリーが自家用セスナ機に乗せてくださりLAの海岸沿いを飛びました。あの時の景色が忘れられません。海外に繋がりを持つことができた素晴らしい経験でした。学園祭では欽ちゃんの仮装大賞を再現しました。みんな変な格好でも楽しんでやれる最高のクラスメイトです。未だにその話で盛り上がりします。

——さて、ジャズとの出会いはいつ、どのようなものでしたか。高校の頃から聴いたり歌ったりしていたのですか？

高校の頃はMr. Childrenの追っかけばか



国際コースの同級生の方々。
「たまに会って懐かしい話をしております」撮影は荳原さん。

りしてました。ジャズとの出会いは25歳頃、たまたま行ったJazzクラブで聴いたジャズシンガーに影響を受けました。私もこんな曲を歌いたいと思うようになりました。

——プロのシンガーになろうと思ったのはどんなきっかけですか。

プロになりたいと思ったことは一度もなく、ただ好きで歌っていたら、歌い続けられる環境を与えられただけです。聴いてくださる方々に支えていただいて今があります。

——謙虚でいらっしゃいますね。デビューするまでのような勉強をなさいましたか。

今も日々精進の毎日ですが、ジャズシンガーの師匠のもとで1時間のレッスンを月2、3回、10年続けました。ボーカルはもちろん、ジャズミュージシャンのインストメンタルの演奏を聴きまわりました。英語の発音の再確認や、楽譜の書き方を学んだり(ジャズのボーカルは譜面から自分で作ることが多い)、セッションの参加などです。

——アルバム「Passage」聴かせていただきしました。まっすぐで自然な歌声が心地よいですね。それと、言葉(歌詞)の響きが美しいと感じます。ジャズも英語も素人なのにごめんなさい(^^)。

恐縮です。バラード集になっています。自分で聴いても3曲目あたりで眠気が来て最後まで聴けません(笑)声を分析すると神がかりなα波が出ているとの結果でした。まっすぐで自然な声と伝わって良かったです。

——神がかりなα波って、すごいですね(笑)ジャズシンガーとして荳原さんが大切にしていることは何ですか。

曲のもつ雰囲気が伝わるように、曲の情景が絵で想像できるように声色や、間を大切にしています。

——個性的な表現やアピールすることを重視す



る歌もありますが、荳原さんのような考えもできてですね。ところで、アルバムタイトルに込めた思いを教えてくださいませんか。

passage(仏語読みでパサージュ)には通過儀礼、小径などの意味があります。私の通過儀礼として、この時点での集大成という意味がまず一つ。もう一つは、大通りの派手さはないけど、細い小径のワクワクする雰囲気や裏通りの懐かしさを感じる存在でありたいと思いタイトルにしました。

——これからの予定、抱負をお聞かせください。

コロナ禍を経て閉塞感を感じる世の中です。今は関東近辺が活動拠点ですが、世界を回って一人でも多くの方々に癒しを届けていければと思っています。もちろん、山形にも行きたいです！

——ぜひ！待っています！最後に、母校へのメッセージをお願いします。

ワールドワイドに活躍できる人材の育成を望みます！国際コースがあって、存在していた時期に入学できて良かったです。復活を望みます！

興味深いお話の数々、ありがとうございました。これからも素敵な癒しの歌を届けてください。

敬愛信

2026年(令和8年)、山形城北高等学校は創立100周年を迎えます。皆様とともに母校に感謝し、未来を祝福できますことを心より願っております。

ボルダリング
2年 工藤 空さん



特進科
「グローバル・エクスチェンジ・プログラム
留学生による国際教育研修」(HPより)



女子バドミントン部
「令和4年度山形県高等学校総合体育大会
女子学校対抗 第1位」

クラシックバレエ
1年 甲州つばらさん

(県高校駅伝競走大会
2年ぶり)



山形市相生町にある(株)紅谷醸造場様は、長年市内の高校に卒業贈答の活動を行い、母校にも毎年卒業生に「味ベニヤ」を御恵贈くださっています。この活動にはどのような思いが込められているのかをお聞きし、「食」

について話し合いました。司会 毎年卒業生に御社の「味ベニヤ」を御恵贈くださり、ありがとうございます。この活動はいつ、どのように始まったのですか。

奥山 弊社が卒業贈答を開始したのは、先代社長(故人)の時代です。30年以上前になりますが、一つにはバブル期の投機ブームが活動の背景にあったように思われます。食をながしうたり、洋食化が一気に進んだことで「日本型食生活」が見直される時期にありまして、和食の調味料メーカーとしては、日本型食生活が体調保全と心のバランスには、役に立っているかを伝えたいと常に考えておりました。親元を離れる方が多い高校卒業時に和食の調味料を贈ることで、成長過程にある若い身体と心を「和食を作る、食べる」の方に少しでも導きたいという思いでした。それから、山形を旅立つ方に郷里の「甘じょっぱい」食文化を忘れないでほしいという願いも込められています。

また、食事の作り手でもあった親御さんたちを労いたいという思いもあります。大病をした時に点滴に頼って命を保つ状況になると、「食べる」とは「幸せの証し」だと痛感します。18年という歳月に人間が口にする食事は、単純計算で19710食にも及びます。生まれて間もないお乳に始まり皆さんの成長を助けるために数多くの苦労があったことをどうか振り返ってもらいたいという思いが、ご家族に感謝の言葉をかけてほしいという思いがこの進呈活動の原動力でもあります。

それから想像ですが、先代社長自身の思いも込められているのではないかと。肉親の大病や死への無念、子どもへの成長に対する願いや責任の念が紛れ込んでいたのではないかと考えられます。インスタント食品などに含まれる食品添加物が、私たちの体にくらか影響

出席者：(株)紅谷醸造場 奥山さん、武田記子さん(昭45)、里見和子さん(平2)、遠藤旭さん(平30)、山下詩織さん(令1) ()内は卒業年度 対談中は敬称略

を与えているのではないかと危惧が「食事づくりに対する思いとなって、さらに人生の節目にいる卒業生の皆さんへの励ましに姿を変えていったのではないかと推察しています。

武田 18年の歳月に人が口にする食事が19710食になると驚きです。食べることの大切さが身に沁みます。食事の作り手としても良いものを選びたいですね。それにつけても幾人もの卒業生へのご進呈には頭が下がる思いです。長年企業継続され、その味を守り通されていることに感謝いたします。

里見 醤油・味噌は日本人の味覚の原点だと思います。そこにこれほどの思いを託し活動していらっしゃるの、とても意味のある有難いことだと思いました。

司会 数年前に卒業したお二人はいかがですか。

山下 「食べる」という行為は「生きること」、幸せになるために必要なことだと思えました。両親に当たり前のようにならざるを得ないことが、実はとても幸せなことなんだと改めて感じました。いまでも以上に感謝し、「いただきます」「ごちそうさまでした」に気持ちを込めています。

遠藤 私にも大学に進学し一人暮らしをしています。部活もしているのですが、時間も買って食べるか外食するかになってしまっています。時間がある時は何か作ってみたいのですが、一人暮らしで男子でも簡単に作れる料理はありますか？

奥山 味噌おにぎりがじわじわと人気を得ています。今にすぐいブームになるかも(笑)郷里を離れてようやく田舎の素朴な料理が実はすごい馳走だったと気づかされることもありますね。山形の美味しさ、どうか探してみてください。

司会 さて、ここで皆さんにお聞きします。皆さんにとって「これぞ山形」と思う料理は何ですか。

全員 芋煮(笑)

司会 はい、王道のご回答、いただきました。

遠藤 秋になったら必ず食べます。

山下 青森の祖母や親戚も大好きです。他県でもどの世代でも愛されていると知り嬉しくなり

ました。お盆の時期に子供たち家族が遠方からも来て一堂に会するので芋煮が定番になっています。その時期はまだ山形産の里芋が希少なもので、時には冷凍の悪芋を使うこともあります。

里見 私は冷凍の里芋に残念な思い出が(苦笑)県外で学生生活を送っていた頃、友達に「山形名物。おいしい！簡単！」と期待させ芋煮を振舞おうとして、ところが肝心の生の里芋がどこにも売ってなくて、これはカルチャーショックでした。

仕方なく冷凍食品の里芋で作ったのですが、ドロドロに溶けてしまい…。友達への反応も微妙なもので、「こんなじゃないんだよー(涙)」と悔しい経験が忘れられません。でも、後日実家から材料を送ってもらいリベンジしたところ大好評で「待っていたのはこの反応です」とドヤ顔でした(笑)

司会 皆さんの芋煮愛が伝わります。では皆さんにとって大切な「家庭の味」は何ですか。

山下 母のおにぎりです。

遠藤 私は母のハンバーグです。母にしか作れない味だと思います。

里見 私と母の料理ですね。特にオムレツ。あと、曾祖母、祖母、母が作る自家製味噌を使った具たくさん味噌汁。

司会 家庭の味の要が自家製とすばらしいです。武田 私は姑から教わった料理です。姑は味ベニヤを愛用しておりました。棒鱈やからかい、昆布巻など乾物の煮物。稲荷寿司、すし揚げを対角線に切り三角に詰める形です。お揚げの味付けはなかなか合格点をもらえませんでした。それから、けんちん汁。ハンバーグのソースにも隠し味として使います。

司会 どれも美味しそう。味ベニヤ万能ですね。何よりお義母さまとの思い出が他にはない味わいになっているのでしょうか。皆さんのお話を伺うと、「食」の経験は人にとってとても大切なもので大切にしていくことはあります。

遠藤 楽しく食べることがあります。みんな楽しく食べることで食欲が増すと思います。

山下 「いただきます」「ごちそうさま」を必ず言う。出された食事は絶対に残さない。箸とお茶碗の持ち方など食事の作法も大切だと思います。

里見 子供たちには、毎日口にするものに関心を持つてほしいです。食事を楽しみ、ぜひ作る喜びも知ってほしいですね。

武田 季節にあわせて、なるべく手作りのものを食べてもらいたいです。一人暮らしをはじめて孫娘が、おばあちゃんの煮物を習いたいと言ってくれて嬉しくなりました。改めて手作り、食の大切さを実感しました。

奥山 皆さんのお話を伺い、食に対する大切な何かを考える良いきっかけになりました。和食ブームが欧米でも中東でもどんどん起きています。大事なことだと思えます。

司会 奥山さん、皆さん、有意義なお話ありがとうございました。ごちそうさまでした。(司会 小池)

会事務局長より

▽会員の皆様には長引くコロナ禍でのご心労、心よりお見舞い申し上げます。

▽令和4年度総会は12月10日、山形国際交流プラザにて行われ、日時・場所・参加人数の制限等心苦しい判断で実施いたしましたこと、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

▽会員の方のご氏名・住所等に変更が生じた場合には、同窓会事務局までお知らせください。皆様のお幸せをお祈り申し上げます。

▽コロナ禍は元より厳しい社会情勢ですが、どうぞご自愛ください。皆様のお幸せをお祈り申し上げます。

編集後記

「駒草」第17号は、間もなく校了する。ひと通り目を通した後、編集の間に取っていたメモを見る。原稿が集まり始めた頃、見開きページの表題は「O's O's」にしたいと思つた。一つまた一つと届くのは、卒業生の「いま」元気で生き生きとした姿は、母校にとって何より朗報、「贈りもの」だ。また、それは一足先に世に出た同窓から在校生への親しいメッセージであるかのよう。待つてゐるよ、と。同窓生の皆さん、ありがとうございます。

そして、ご協力いただいたすべての方に心より感謝申し上げます。お話をの視点がいちも温かい(株)紅谷醸造場の皆さん。メールの返信は思いがけない贈りものを受け取るような心持だった。記録を紐解き、人に尋ね、卒業生を辿つてくださった教員OBの先生方。すでに紙面を作つてくださったコロニイ印刷さん。多くの方の親切と朗らかさに助けられ、会報はもうすぐ出来上がる。

少しだけ新しい味付けをした会報「駒草」。窓を開けた時に感じる空気の動きのように、読む人のアンテナを静かに震わすことができたなら、と思う。

(小池智子・宗片可奈子・山内智香子)